

令和6年度 学 校 評 価 報 告

草加市立松原小学校

(令和7年1月31日作成)

| | |
|---|---|
| 1 学校教育目標 | |
| 心身ともに健康で自ら学ぶ子 ～やさしさと 笑顔でつなぐ 松原っ子～ ① 教職員が一体となって、学校教育目標の具現化に努め、新学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。 ② 教職員相互の磨き合いを深め、資質と指導力の向上に努める。 ③ 「時を守り、場を淨め、礼を正す」教育を推進し、凡事徹底・常態のレベルアップに努める。 ④ 安全で落ち着きと潤いのある教育環境の維持・管理に努める。 ⑤ 地域との交流を深め、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。 | |
| 2 重点目標・努力目標 | 3 前年度の成果と課題 |
| ○「やさしい心」の育成 子どもたち一人ひとりのよさを認め合う学級経営 ○「強い心」の育成 目標を持たせる教育活動の工夫 ○「健やかな体」の育成 業間運動や体育科授業の充実 ○「自ら学ぶ力」の育成 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践 | 成果 ○思考力・判断力・表現力の向上を目指し「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を基に「松原小スタンダード」を作成し授業で活用した。また、校内研修で互いに授業を見合うことにより、学校全体で指導方法を見直し改善することができた。その結果、各学力調査において、学力に伸びが見られる児童が昨年度よりも増えた。 課題 ●授業の中での効果的なICTの活用について検討し、ICTに頼るのではなく、児童の理解を深めたり、知識を広めたりするためのツールの一つとして、必要に応じて児童に活用させることができるよう、校内研修を企画・実施していく。 |

| 4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である] | | | | |
|--|------------|---|----|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
| I 学校運営に関する | ①組織運営 | ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 | A | ○各主任が中心となり、建設的な意見交流をしながらボトムアップで立案や運営・実施を行うことができた。 ●校務分掌における負担感をより均等にし、教職員の負担軽減につなげていきたい。 |
| | ②研究・研修 | ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 | A | ○校内授業研究、ICT研修、年度初めの確認事項等、各部の主任を中心に行い、共通理解をもって授業を進めることができた。 ●校内授業研究については、研究授業を見ることが大変有意義であるので、できるだけ全員の教員が授業参観できる体制をとるようにしていきたい。 |
| | ③保健管理・安全管理 | ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 | A | ○養護教諭が管理職に報告・連絡・相談を速やかに行うことにより、大きな事故やけががなかった。 ○定期安全点検の実施により、施設・設備の事故がなく、児童が安心・安全に学校生活を送ることができた。 |

| | | | | |
|----|-------------------|---|---|---|
| もの | ④情報管理・施設設備管理 | <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 | A | <ul style="list-style-type: none"> 管理職や事務主事等、複数の目で定期的に諸表簿の確認を行うことにより、正しく管理することができ、事故もなかった。 年間20回以上の倫理確立委員会の実施により、教職員の危機管理についての意識を高め、適正に施設管理をすることができた。 |
| | ⑤地域との連携 開かれた学校 | <ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの毎日の更新、学校運営協議会や地域・保護者ボランティアとの協働や情報交換により、教育活動への理解を得ることができた。 地域に開かれた行事により、地域・保護者とのつながりを複数持つことができた。昨今の情勢を考えると粘り強く継続する意識を学校側が持ち続ける必要がある。 |
| | ⑥幼保小中を一貫した教育 | <ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり | A | <ul style="list-style-type: none"> 栄中学校区の研究発表会に向けた取り組みを通して、幼保小中の連携を意識した研究を進めることができた。 ●研究で進めた取り組みの成果を、今後も3校で連携しながら継続していく必要がある。 |

(様式1・小学校用②)

草加市立松原小学校

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|------------------|------------|--|----|--|
| II 教育活動に関するもの | ①教育目標・教育計画 | <ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○毎月、授業時数や履修内容を確認することにより、指導計画に基づきほぼ確実に実施することができた。 ○自己評価シート作成時や自己評価面談時に学校教育目標や校長の学校経営方針について教職員に意識づけ、今年度の一貫性を持った取り組みにつなげることができた。 |
| | ②教科指導 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○松原スタンダードや学力向上タイムなどの環境整備、まなボードや過去問常設などの環境設備を充実させることで、教材研究が進めやすくなることができた。 ●内容を年度ごとに更新しながら継続していくことで、教職員全体の教育力向上につなげていきたい。 |
| | ③道徳教育 | <ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○年度当初に授業方法、評価方法についての研修や模擬授業の取り組みを行うことで、全学級が同じように道徳教育を進めることができた。 ○研究発表に向け、国語科、算数科、道徳科において横断的に実践ができるよう、各教科で連携することができた。 |
| | ④外国語・外国語活動 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○年度当初にクラスルームイングリッシュを作成し、授業の基本的な流れを全校で統一することができた。 ●ALTとのミーティングの時間を確保し、効果的な指導ができるようにしていく。 |
| | ⑤特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○学校行事を通して児童の活躍の場を設け、児童に達成感や充実感を持たせることで、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。 |

| | | | |
|-----------------|---|---|---|
| ⑥「総合的な学習の時間」の指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 | B | <p>○各学年の指導計画に基づき、他教科と関連させながら指導を行うことができた。</p> <p>●調べ学習でまとめたことを発表するという授業になりがちであるため、体験等も取り入れ、新たな取組ができるよう、指導計画を検討していく。</p> |
| ⑦生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 | A | <p>○生徒指導主任を中心に、様々な児童のトラブルや問題行動に管理職をはじめとする組織で速やかに対応することができた。</p> <p>○いじめ防止対策委員会は定期的なものと緊急時のものと臨機応変に開催し、学校全体で共通理解のもと指導にあたることができた。</p> |
| ⑧キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 | B | <p>○キャリア・パスポートを活用し、家庭や地域と連携することにより、将来の自分への期待を持たせることができた。</p> <p>●地域の活動に参加できる児童を増やすため、様々な教科と関連付けて指導していきたい。</p> |
| ⑨特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 | A | <p>○個別の指導計画をもとに、家庭と連携しながら個々の障害や課題に合わせた、きめ細やかな指導を行うことができた。</p> <p>○発達面、心理面の課題から登校が難しい児童等を支援学級に受け入れるなど、柔軟に対応することができた。</p> |
| ⑩学校図書館教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 | B | <p>○地域ボランティア（はなぐり物語）や教職員の読み聞かせ等により、本に興味をもち、学校図書館を利用する児童が増えた。</p> <p>○全学級が週1時間以上の学校図書館活用の時間を設けることにより、児童の読書量が増やすことができた。</p> |
| ⑪情報教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 | A | <p>○情報教育主任が講師となり教職員研修を行った。これによりICTに苦手意識をもつ教員も授業や行事で積極的にICT機器を活用することができた。</p> <p>○授業の中で必ずICTを使うのではなく、学習内容に応じて何を使用するのが効果的なのか、研究を深めることができた。</p> <p>●学習内容に応じてICT機器を使うのか、それ以外を使うのか、判断できる児童を育成していきたい。</p> |
| ⑫人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 | B | <p>○人権週間を設定し「人権感覚育成プログラム」を活用した指導を全学級で行った。児童の人権意識が高まった。</p> <p>●児童の人権意識を高めるために、教職員の人権研修の機会をより充実させていく。</p> |

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|----------------|------------------|---|----|--|
| Ⅲ 特色ある学校づくり | ① 豊かな心をはぐくむ学校 | ・児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を育む学校 | A | ○係活動の取り組みや、「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業を行う中で、自分の考えを持ち、友達と話し合う活動を通して、児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を育むことができた。 ○児童会が主体となり、年間を通してあいさつ運動を実施し、あいさつの大切さが定着している。また、中学生との合同あいさつ運動の実施により、中学生をお手本としたよいあいさつができるようになった。 ○毎月児童の俳句を学校だよりで紹介し、昇降口前に掲示することにより、児童が自然や季節を感じ、言葉で表現することができた。 ●登校時、あいさつが苦手な児童がいる。高学年児童が手本となり、全校に元気なあいさつが広がるよう指導をしていきたい。 |
| | ② 確かな学力をつける学校 | ・児童の「自分の考えを持つ・伝える」「コミュニケーションを行う」「他者と協力する」態度を育成する学校。 | A | ○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業を毎時間、どの学級でも行うことを通して、児童の「自分の考えを持つ・伝える」「コミュニケーションを行う」「他者と協力する」態度を育成することができた。 ○全教職員で学力・学習状況調査の問題を解き、児童の課題の把握と指導の重点を明確にすることで、特に国語科・算数科で指導改善に取り組むことができた。 |
| | ③ 体力向上と健康な体を作る学校 | ・体育科の授業や体育行事の充実、外遊びの時間の確保により、運動好きの児童を育てる学校。 | B | ○草加西高校の生徒に来てもらい、高校生の走る様子等を見学したり、高校生のアドバイスを受けていたりすることで、目標をもって運動に取り組む児童を増やすことができた。 ○「すこやかタイム」の活用や校庭遊びを推奨することにより、意欲的に体力作りに励む児童が増えた。 |

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・学力調査をもとに、4月当初にレディネステストを行い、学力向上につなげた。また、課題と思われる部分をパワーアップテストに盛り込み、全学年で取り組むことができた。朝の時間に「学力向上タイム」を設定し、国語科・算数科を重点的に全校で問題に取り組ませることができた。「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を基にした「松原小スタンダード」の活用や研究授業を重ねることを通して、松原小の授業のスタイルの土台ができ、実践することができた。これらの取り組みにより、児童の自己肯定感を高め、学力向上に繋げることができた。
- ・各学年の実態に応じた学校生活アンケートを行い、また生徒指導委員会を定期的に行うことにより、各学年・学級から上げられた生徒指導上の問題点に迅速・丁寧に対応することができた。授業や係活動の取り組みを通して、児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を高めることができた。
- ・学校運営協議会において学校経営方針をご理解いただき、授業や児童の様子を見ていただくことにより、様々な学校教育活動への支援と協力を得るための協議ができた。地域では地域ごとのお祭り等、参加した児童も多く、学校と地域とが連携して児童を見守り育成していくことができています。

6 次年度の改善策

- ・今年度は栄中学校区の研究発表ということで、幼保小中を一貫した教育を推進し、幼保との情報交換・情報共有、中学校と連携した乗り入れ授業やキャリア教育の充実、さらに地域との連携を深めていくことができた。今年度の取り組みを次年度以降も継続して、互いに学び合い、認め合い、高め合うことができる児童を育成していくようにする。
- ・これからも全教職員が、教育活動全体を通して、児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を高めるよう意識的に取り組み、積極的な生徒指導を充実させる。不登校やいじめ、問題行動等には全教職員がアンテナを高く張り、早期に発見・解決し、児童が安心して学校生活を送れるようにする。
- ・次年度の教育課程を見直し、児童への教育的効果を維持しながら教職員の負担軽減につながるように計画していく。